ルクセンブルク経済

Open

Dynamic

Reliable

“オープンでダイナミックな国、ルクセンブルクは、企業や投資家の皆様に対し、それぞれの発展に適した環境を提供することで、革新的で信頼できるパートナーとして常に国際的な評価を得てきました。”

ルクセンブルク商業会議所　**Carlo Thelen氏**

ルクセンブルク経済

Open

Dynamic

Reliable

/ ルクセンブルク商業会議所 /

目次

今日のルクセンブルク	4
経済構造	14
オープンで国際化された経済	32
税制	38
ルクセンブルク経済の未来	42
ご存知でしたか？ルクセンブルクの経済史	48
関係機関連絡先	54

今日のルクセンブルク

ルクセンブルクは面積は小さな国ですが(2,586km²)、ダイナミックな経済と、高い生活の質で知られています。また、世界で最も治安の良さが感じられる国の1つです。

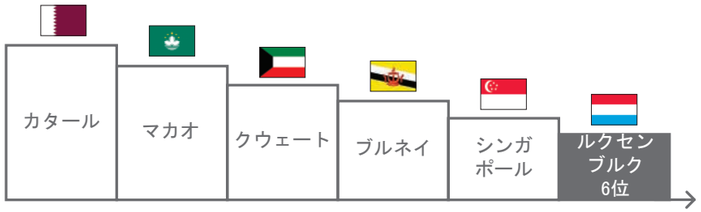
欧州の中心に位置する地理条件、170カ国からの国外出身者の共存、国民の多言語主義、大公国という地位により、ルクセンブルクは他に類のない国となっています。公用語は、ルクセンブルク語、ドイツ語、フランス語の3言語で、政治体制は議会を備えた立憲君主制です。

生活水準

ルクセンブルクは国民１人当たりの実質国内総生産が世界一で、 国民当たりの国内総生産は80,800ユーロと、欧州28カ国の平均の3倍以上ですが、この数字は、国民に数えられることなくルクセンブルクの国民総生産に貢献している越境労働者が多いことから、実際より多くなっています。

国民1人当たりの国民総所得
（一部は購買力で表示）

= 72,080ドル



2018年にはほぼ5%の成長率が予想されており、ルクセンブルクの経済は、EUの中でも最高のパフォーマンスを示しています。

世界の競争力比較において、ルクセンブルクは必ずトップ25にランクインしています（出典：WEF、IMD、欧州委員会など）。

/ ルクセンブルク市 – キルシュベルク台地 /

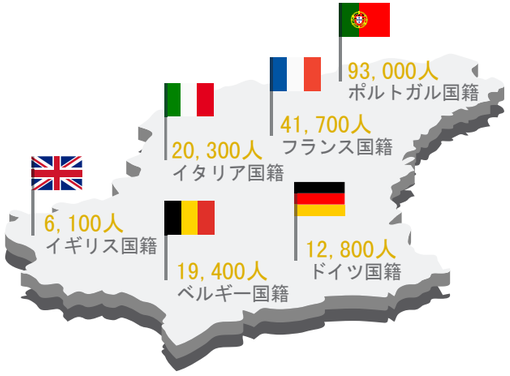
“ルクセンブルク大公国は多様性が豊かです。”

Diversity社創業者
Valérie Dubois-Chamérian氏

ご存知でしたか？

人口構成

307, 000人
ルクセンブルク国籍



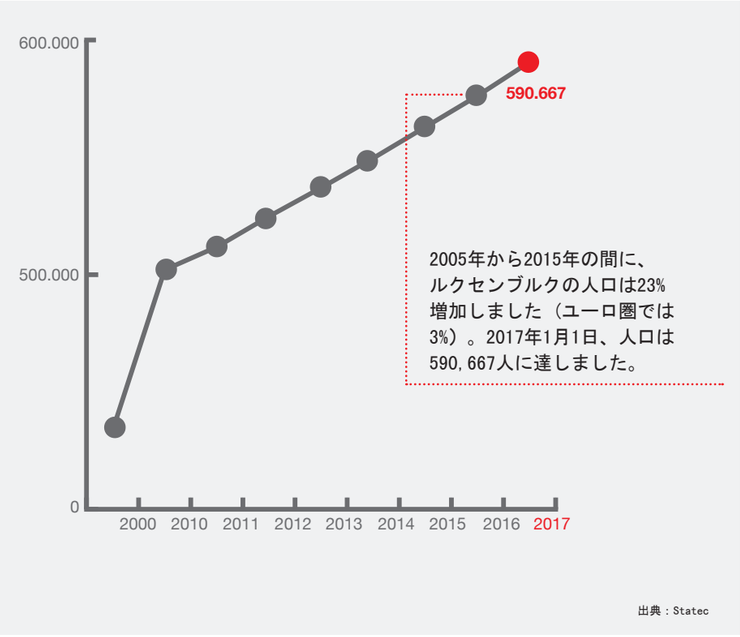
32, 100人
その他のEU国籍

39, 700人
その他の国籍

出典：Statec

人口＆雇用

ルクセンブルクの人口推移 2000年～2017年



“ルクセンブルクではすべてが近く、簡単で、ダイレクトです。”

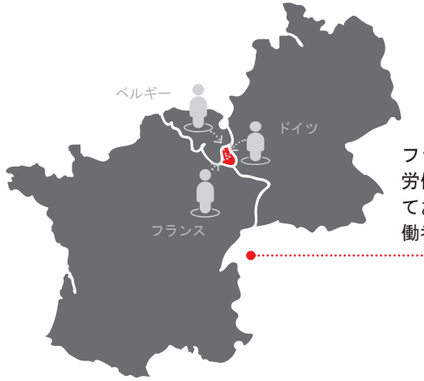
Ecotech社共同創業者
Fahd El Mahjoubi氏

170ヵ国の国籍を持つ人々が日々共に生活しており、住民の46. 7%がルクセンブルク国籍を持っていません。

2000年から2015年の間に、国内雇用が1. 5倍になり（+53%）、非ルクセンブルク人が、その71%に就いています。

“ルクセンブルクは他の3ヵ国と隣接しているため、今までとは異なる働き方への道を開いてくれます。”

Soundtastic社共同創業者
Vanessa Leiritz氏



フランス、ベルギー、ドイツからの越境労働者により国内の雇用の45%が占められており、 2000年から2015年の間に越境労働者の数が2倍になりました。

労働人口の41%は、
高等教育を受けています。

2017年6月現在の失業率は6%です。

法定最低月給（18才以上、無資格）は、
2017年1月1日現在、1,998.59ユーロです。

高等教育＆研究

ルクセンブルク大学と4つの公立研究センター（LIST、LISER、LIH、マックス・プランク）に加えて、ルクセンブルクには、グローバル企業グループ傘下の民間の研究所が数多くあります。例えばグッドイヤー（アメリカ合衆国外では8番目に大きい研究センター）Husky、IEE、Delphi（国際本部と研究員600人を擁する研究センター）やDupont de Nemoursなどです。

ルクセンブルク大公国では、労働人口1000人に対し、7.12人の研究者がおり、これは欧州の平均的な数値で、研究開発分野の雇用は5,000人を超え、この15年間で40%増加しました。

2014年、ルクセンブルクは、国内総生産の1.25%に当たる6億1420万ユーロを研究部門に充当しました。また、政府は、研究開発に関する公的支出を2020年までに国内総生産の2.3～2.6%に引き上げることを目標としています。現在のところ、研究による支出の半分超を民間セクターが負担しています。

2003年、ルクセンブルクに教育と研究の要となる国立大学が初めて設立されました。

ルクセンブルク南部のエッシュ-ベルヴァルにキャンパスを持つルクセンブルク大学は、瞬く間に世界の創立50年未満の大学トップ20にランクインを果たしました。

ルクセンブルク大学は、国外の数多くの大学機関と協力関係を結んでおり、そのうちの20校は、ルクセンブルクから半径200km以内にあります。

知的財産権

ルクセンブルクは、欧州指令および国際協定、国際条約を実施することで知的財産権の面で安心できる環境を形成し、2009年6月5日付の研究開発・イノベーション(RDI)促進に関する法律で、その魅力を強化しました。

ルクセンブルクの法律は、数種類の特許、すなわち国内特許、欧州特許、国際特許という選択肢を提供しています。ルクセンブルクはまた、ベネルクス知的財産機構にも加盟しています。

2015年にルクセンブルク知的財産協会(IPIL)が設立されました。この経済利益団体(GIE)は、国内・国外の専門知識を結集することを目的としています。

ご存知でしたか？

ルクセンブルク大公国の順位

231ヶ国中21位
生活の質の高さ
2017年マーサー
世界生活環境調査

67ヶ国中9位
国外移住者
が評価する国ランキング
2016年InterNationsランキング

ルクセンブルク市のランキング

230都市中1位
治安の良い町
ランキング
(国内の安定性、犯罪がとても少ない 、社会秩序)
2016年マーサー世界生活環境調査

最も暮らしやすく
働きやすい都市
ランキング
64都市中6位
2014年Global liveable cities Index

企業

ルクセンブルクで事業を行う企業は毎年1000社ずつ増えており（新設企業数から閉鎖企業数を差し引いた純増分）、起業アイデアを持つ人を支援するための完全なエコシステムが構築されていると言えます。

今日では公共、民間、あるいは半官半民の機関が、起業プロジェクトの経済的支援も含めたサポートと仮オフィスの提供を行うなど、ルクセンブルクは名実ともにスタートアップ国家となることを目指した積極的な取り組みを展開しています。

従業員数トップ10社（2017年1月1日現在の従業員数、行政機関と病院を除く）：

	01	通信業	POST LUXEMBOURG	4,350人
	02	鉄道運輸業	CFL	4,170人
	03	鉄鋼業	ARCELORMITTAL	4,160人
	03	小売業	CACTUS	4,030人
	05	銀行業	BGL BNP PARIBAS	3,700人
	06	清掃業	DUSSMANN LUXEMBOURG	3,650人
	07	自動車産業	GOODYEAR DUNLOP	3,410人
	08	コンサルタント業	PRICEWATERHOUSECOOPERS	2,840人
	09	航空運輸業	LUXAIR	2,630人
	10	銀行業	GROUPE BIL	1,940人

出典Statec

“政府やプロモーション機関が身近な存在であることもルクセンブルクの知られざる強みです。”

Silicon Luxembourg社創業者
Charles-Louis Machuron氏

インフラストラクチャー＆設備

ルクセンブルクの鉄道は全長274kmあり、フランスのTGV（超高速列車）東ヨーロッパ線に接続しているため、パリやストラスブールとも繋がっています。

1,000km²当たり58.77kmの高速道路があり、世界で最も高いレベルの普及率を誇っています。

ルクセンブルク空港は、2000年から2015年にかけて乗客数60%、航空機数47%の伸びを見せました。現在使用されているターミナルは2008年にオープンしたものです。

2015年の時点で576,000人の住民に対し、906,000件の携帯電話加入契約、つまり住民1人当たり1.57件の契約が結ばれています。このルクセンブルクの携帯電話加入率は、欧州連合内ではフィンランド、イタリア、ポルトガル、オーストリアに次いで第5位です。

ほぼ全世帯がコンピューター（95%）とインターネット接続（97%）を有しており、スマートフォンとノート型パソコンは、最もよく使われているモバイルツールです。10世帯中9世帯が高速インターネットへのアクセスを保有し、ルクセンブルクは、無数のワイドバンド接続により欧州の主要ネットワーク拠点と繋がっています。

住民1,000人当たりの保有車台数は678台で、ルクセンブルクの自家用車保有率は欧州連合の中で最高の水準となっています。

欧州連合機構の地

ルクセンブルク市はブリュッセルやストラスブールと同様に欧州連合の中心都市の1つであり、市内には12の欧州連合機構・機関が集まっています。

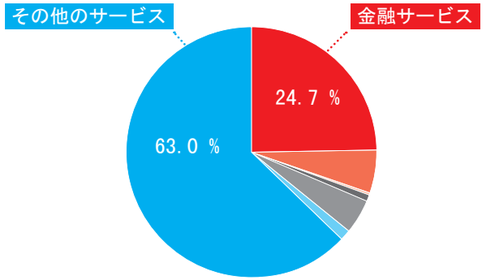
2015年現在、10,400人の住民がルクセンブルクにある国際組織に勤務しています。

ご存知でしたか？

ルクセンブルク国内には10軒以上のミシュラン星付きレストランがあり、美食レストランに最も恵まれた国の1つとなっています。

ルクセンブルク経済は、金融に強いことで知られています。(2015年の経済的付加価値の27.5%、雇用の11.7%) 金融分野の豊富な専門知識は衰えることを知らず、イノベーションも盛んです（イスラム金融、人民元決済銀行の導入、気候変動ファイナンス、マイクロファイナンスなど）。同時に、他の分野についても、国の経済の多様化を望む政府の推進の下で、急速に発展しています。特に産業部門は、ルクセンブルクで先端的な開発を行う一流国際企業の大規模投資により強化されています。

経済構造



- 5.4 % 建設業
- 0.3 % 農業
- 0.9 % エネルギー、水道事業
- 4.5 % その他の産業
- 1.2 % 鉄鋼業

国内総生産に占める割合
出典：Statec

金融センター

金融センターは1970年代に飛躍を遂げ、製鋼業に代わってルクセンブルク経済の原動力となりました。今日ではルクセンブルクの金融センターは、国際的規模、多角化のレベルの高さ、イノベーション能力、安定性を特徴としています。

銀行

ルクセンブルクには141の銀行があります。

ルクセンブルクで事業展開している銀行は特に次の分野を専門で知られています。

- プライベートバンキング
- 生命保険
- 投資ファンド管理

金融業界は、時代に順応し多角化することで、個別管理や財政最適化サービスの需要増加に応えてきました。

投資ファンド

4,141の投資ファンドにより3兆9560億ユーロの純財産の管理が行われています（2017年5月）。この金額はルクセンブルク大公国の1年間の国内総生産の50倍に相当し、イタリアの国内総生産に近い金額です。

ルクセンブルクは運用資産額において欧州第1位であり、世界では（アメリカ合衆国に次いで）第2位に位置しています。さらにルクセンブルクは、投資ファンドに欧州パスポートを付与する欧州指令UCITS 1をいち早く取り入れた近代的で競争力のある法律と規制の枠組みを打ち立てました。

金融業界においては、ルクセンブルクは常に革新的なソリューションを考案しています（SICAR、ヘッジファンド、家族資産管理会社、証券化、年金ファンドなど）。

PSF（金融専門業者）

金融機関ではなくとも、業務の性質上、 金融業者監視委員会の監視を受ける義務のある事業者を総称する呼称です。例えば以下のような企業が挙げられます：

- 投資会社（投資アドバイザー、投資ブローカー、受託業者、資産管理業者など）
- 専門PSF（証券代行業者、金融証書受託業者、ルクセンブルクで認可を受けた規制市場運営者、両替業者など）
- 補助的PSF（顧客通知代理業者、金融行政官、情報システムオペレーターなど）

金融業界において業務の外注が年々増加することから、上述の非銀行金融取引専門会社がルクセンブルク国内で増加しており、300社以上のPSFで、15,200人が雇用されています。

フィンテック

金融センターの活力を背景に、ルクセンブルクはフィンテックのスタートアップ展開の盛んな場所となりました。フィンテックは急速に発展している分野で、2016年末には、約150のフィンテック会社が存在し、うち3分の2は創業3年未満です。

保険会社

保険会社94社および再保険会社223社が、ルクセンブルクの市場調整機関である保険委員会の認可を受けています。

金融監視委員会（CSSF）

金融監視委員会は、ルクセンブルクの金融業者と金融商品を監視する公的機関で、以下を任務としています。

- 監督
- 規制
- 許可
- 情報提供
- 監査、必要に応じて

この委員会はまた、金融商品・サービス市場の透明性、簡易性、公平性の向上を促進し、金融消費者保護法、資金洗浄やテロ活動への資金提供を禁止する法律の適用を監督しています。

/ 金融監視委員会（CSSF） /

ICT & デジタル経済

ICT（情報通信技術）分野は、ルクセンブルク経済全体よりも急速に伸びており、2009年～2013年の成長率は、平均7.4%でした。ICTの専門家は、他の欧州諸国の平均が3.5%のところ、ルクセンブルクでは国内雇用の4.6%を占めています（2015年データ）。この分野が活発となった要因として以下が挙げられます：

- 魅力的な税制
- 規制に関する有効な事前対応
- 最新のインフラ設備（高いセキュリティを備えた28のデータセンターなど）
- Verizon Business、Skype、eBay、Apple, iTunes, Amazon, Paypal, Google, Vodafone、などの大手国際企業や、オンラインゲーム会社、電子書籍販売業者などのICT関連の多数の企業を魅了する、きめ細かな分野別政策

ルクセンブルクは、音楽のダウンロード、ビデオ・オン・デマンド、有料チャンネル、テレビ・ラジオのデジタル放送といったオーディオビジュアルのデジタルコンテンツ配信に理想的な世界的中心地としての地位を確立しました。

ルクセンブルクのITエコシステムには、オンラインセキュリティ分野（LuxTrust社など）、ブロードバンド接続（Teralink社、P&T Luxembourg社、Data Center Luxembourg社、 Inexio社、 LuxConnect社など）の高い能力を持つ地元企業が揃っています。eコマースの発展を後押しするために、ルクセンブルクは、特にパリ、フランクフルト、ブリュッセル、ロンドンへのバックエンド接続を何重にもバックアップしている他、一連のベンチャー企業支援設備も用意しています。

2008年以来、ルクセンブルクは、知的財産やドメイン名の管理で魅力的な枠組みも提供しています。また、2009年のLU-CIX創立以来、ルクセンブルクは、独自のビジネス向けインターネット相互接続点（IXP）も備えています。

2014年10月政府は、デジタル経済・社会に備えて卓越したハイテク先端研究拠点に国を引き上げるためにインフラ、電子スキル、フィンテック、プロモーション、イノベーション、電子政府の各分野の包括的イニシアチブ Digital Lëtzebuerg（デジタル・ルクセンブルク）を発足させました。

ルクセンブルクの主導により、欧州連合は、2023年までにハイパフォーマンスコンピュータ（HPC）を互いに接続した欧州ネットワークを設置する意欲を示しています。ルクセンブルクは2018年から独自のHPCを導入します。欧州委員会はこのプロジェクトの担当部門をルクセンブルクに設置し、200人が雇用される予定です。

“ルクセンブルクには多数の製作会社があるため興味深い映像・映画プロジェクト、特にアニメーション作品が充実しています。”

Soundtastic社共同創業者 Vanessa Leiritz氏

映像・映画製作

ルクセンブルクは、メディア通信大手２社の創業の地であり、その事業は今日もこの国で継続して展開されています。

RTL Group： 1924年創業の欧州最大手のテレビ・ラジオの放送局。最近ルクセンブルクに新本社を構えたBertelsmann AG社が、現在このグループの株式の75.1%を所有しています。

SES： 1980年代初頭の創業で、50以上の衛星を有する世界最大規模の通信サービスとテレビ放送のプロバイダーに成長しました。

近年ルクセンブルクは、映画製作業界でも国際的な地位を築き、20社以上の、700人もの人材が同産業に従事しています。ルクセンブルクで製作、共同制作された作品は、国際映画祭で安定した高い評価を受けており、2016年には長編映画「神様メール」がマグリット映画賞の4つのカテゴリーで受賞を果たしました。

アニメーション分野でも大きな成功をおさめ、2014年には短編アニメーション「ミスター・ウブロ」は、ルクセンブルク初のアカデミー賞を受賞しました。同じく2014年、「くまのアーネストおじさんとセレスティーヌ」も、数々の受賞を受け、マグリット賞ならびにセザール賞にも輝きました。

物流

物流に関するインフラが整っていることから、ルクセンブルクは世界銀行の「ロジスティックズ・パフォーマンス・インデックス」で第2位（160ヵ国中）にランクインしています。ルクセンブルクはまた、行政手続きの簡略化戦略によって、物流業界に好影響を与えています。このように、国際市場への素晴らしいアクセスを備えたルクセンブルクは、付加価値の高い物流業務のための理想的なオペレーション拠点となってきています。

航空貨物

ルクセンブルクの航空貨物センターの年間貨物取扱量は100万トンで、欧州第6位に位置しています。現在8機分の貨物を同時に取り扱うことが可能ですが、2018年に予定されている拡張完了後は、処理能力が 12機分に増強されます。トラックへの積込ターミナルは着陸滑走路に隣接しており、貨物のハンドリング時間が大幅に削減されます。

国際貨物航空会社　Cargolux社は、業績を飛躍的に伸ばしました。（2002年～2009年、年間+12%）。世界各地に85の事業所を持ち、90都市への便を運航し、従業員1,870人以上を雇用する、世界有数の企業となっています。

“ルクセンブルクは市場が小さく、一種の実験室の代わりになり、製品の市場テストに大変便利です。”

Motion-S社共同創業者
Guido von Scheffer氏

ルクセンブルク空港の貨物センターは、2013年より、超高性能温度制御システムを備えた医薬品および医療関連商品専用の倉庫保管センターがあります。

空港直通のルクセンブルク・フリーポートでは、300の金庫室を含む22,000m2の敷地に、あらゆる種類の貴重な商品のために、最大限の安全性と保護環境（温度・湿度管理）を提供しています。ワインや芸術品、コレクション向けクラシックカー保管の特別な設備を有し、広大な内部面積により大型の芸術作品の収納も可能です。

河川運輸／海運

河川運輸および海運は、大きく成長した分野です。ライン川まで200kmに位置するメルテール港の利用は、2013年から2014年にかけて14%以上の伸びを見せました。65ヘクタールのこの港は、特に製鋼業関連商品および石油製品にとって、世界有数の施設となっており、1,600mの埠頭には12～35tまで吊上可能なクレーンが10台設置されています。

ルクセンブルクは海に面していませんが、ルクセンブルクの国旗を掲げた輸送船は航行しています。海運会社335社がルクセンブルクで登記しており、最新の輸送船団を所有しているからです（船の平均年数 6.3年）。2015年には、ルクセンブルク船籍の船は約230隻を数えました。約400人の地上勤務者に加えて、商船に乗務している4,000人の船員が運航に従事しています。

鉄道 / トラック輸送

ルクセンブルクは、商品コンテナを列車から直接トラックへ、あるいはトラックから列車への積み替えが可能なマルチモーダル物流センターを設立しました。CFLマルチモーダルセンター（ルクセンブルク鉄道会社）は、ルクセンブルク大公国南部のベッテンブルクに位置しています。この物流ハブは、2025年までに、年間取扱量450,000パレットまたはコンテナ300,000個（現在は125,000個）到達を目標にしています。CFL Cargo社（通常の鉄道運送）とCFL Multimodal社（混合運送およびマルチモード物流サービス）が、北海、バルト海、南ヨーロッパの港に向けて鉄道とトラックによる輸送を行います。

ルクセンブルクにはトラック輸送会社が800社あり、その半分は国際輸送を専門にしています。それら企業は運転手7,000人を雇用し、トラック5,000台を所有しています。そしてこうしたインフラは、荷物管理や技術の供給において有能な多数のフォワーディング業者によって支えられているのです。

/ Ketterthill研究所 /

バイオ技術 &生物医学

ルクセンブルクの生物医学エコシステムは、若手による活動的な公的研究団体によって推進されており、癌、免疫学、神経変性病などの主要な戦略的分野において科学的卓越性を誇っています。主要な生物医学研究支援機関、ルクセンブルグ統合バイオバンクの支援を受け、高度な知識と能力がルクセンブルク保健研究所（LIH）とルクセンブルグ大学の一部となっているルクセンブルク生物医学システムセンター（LCSB）に結集されており、これらの科学研究所は、Fast-Track Diagnostics社、Flen Health社、Complix社、ITTM社、Braingineering Technologies社といった、活動的な中小企業と新興企業において増えつつある人材の研究革新能力を活用しています。またモバイルヘルス、ビッグデータ分析の分野で事業展開中の企業による革新や価値の創造を促進するためのルクセンブルクをベースにした新たな構想によって、デジタルヘルス関連企業の拠点としてのルクセンブルクの魅力が間違いなく強化されることでしょう。

/ 風力発電所 – ヴァンクランジュ/

環境テクノロジー & 再生可能エネルギー

ルクセンブルクは環境保全関連の以下のような多くの分野において進んだ専門知識を有しています。

エココンストラクション / 再生可能エネルギー / 廃棄物管理 / 水資源管理 / 電動モビリティ

全200社近くの企業が政府の野心的なプログラムの支援を受け、様々な分野で事業展開しています。

ご存知でしたか？

ルクセンブルクは欧州連合の中心都市の1つです。

複数の欧州機構がルクセンブルクに本部を置いています：

- 欧州議会事務局
- 欧州連合の様々なサービス部門
- 欧州連合司法裁判所
- 第一審裁判所
- 欧州連合統計局（ユーロスタット）
- 欧州共同体公式出版局
- 欧州会計監査院
- 欧州投資銀行（BEI）
- 欧州投資ファンド（FEI）
- 欧州連合諸機関翻訳センター
- 欧州自由貿易連合裁判所

観光 & MICE

観光産業は、政府による相次ぐプロモーションや支援政策のおかげで継続的な成長を見せ、ルクセンブルクの国内総生産の6.5%を占めるとともに、直接・間接に20,000人を雇用しています。また政府は、観光インフラの継続的な改善を目的とした数年に渡る計画を策定しました。

観光産業の中では、MICE（会議、インセンティブ、カンファレンス、展示会も大きな伸びを見せ、政府の観光政策の優先事項の一つとなっています。MICE等ビジネス関係の旅行の1泊当たりの経済効果は、レジャー観光に比べて平均して3倍高くなっています。

詳細は：
http://meetings.visitluxembourg.com/

製造業

長年鉄鋼業が支配的であったルクセンブルクの製造業は、この30年で大きな多角化を遂げ、現在、既存の施設の拡張や近代化、あるいは新施設の建築やイノベーション促進のための多額の投資により、活力を取り戻しています。これらの投資の多くは、ルクセンブルクの地理条件やインフラの水準に魅力を感じた国際的大企業によるものです。

/ CTI Systems社工場 /

公表されている主な工業関連プロジェクト

Faymonville ベルギーの特殊輸送用セミトレーラー製造業者。10,000㎡の新工場と物流センターの建設。

Hydro Aluminium ノルウェーの製造業者。アルミニウムのリサイクル施設。

Brasserie de Luxembourg ベルギー・ブラジル系AB InBevグループの子会社。新しいビール醸造工場の建設。

Goodyear（タイヤ）& IEE（センサー） 研究開発センター。

Euro-Composites ルクセンブルクの複合材料パネル製造業者。工場拡張、最新設備導入。

Avery Dennison アメリカのラベル用ロール紙製造業者。生産ライン増設および保管・発送能力拡大のための12,000㎡拡張。

ファナック ルクセンブルクに欧州本部を置く日本の産業ロボット製造業者。
20,000㎡の欧州における倉庫・流通拠点。

DuPont アメリカの化学専門グループ。Tyvek® のための第2生産ラインの建設。

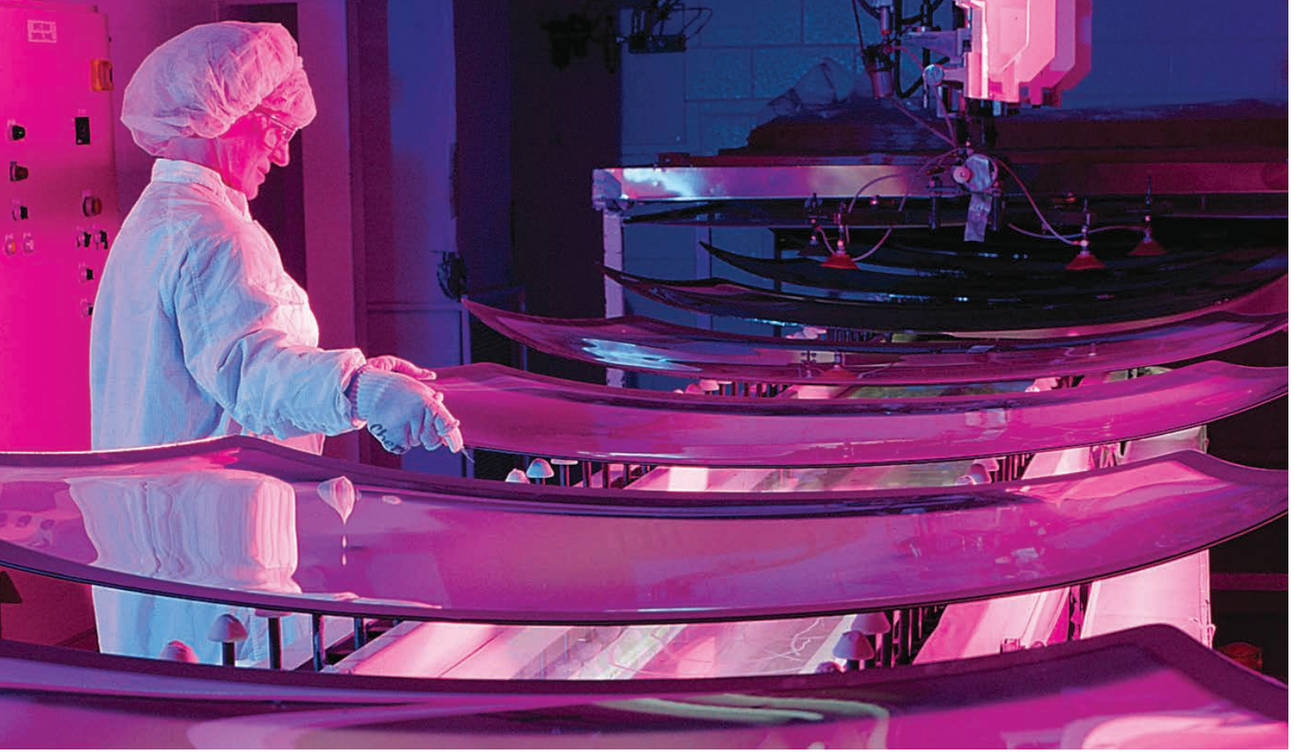
Fage ギリシャのヨーグルト製造業者。敷地15haの工場。

ArcelorMittal （鉄鋼） 生産ラインおよび物流インフラへの投資。

OCSiAl カーボン製ナノチューブ製造業者。研究センターと工場の開設。

Retal ウクライナのボトルプリフォームおよびプラスチックキャップ製造業者。2016年に生産ライン5本を備えた4000m2の工場を開設。

Kronospan オーストリアのチップボード、パーティクルボード製造業者。生産能力拡大および2台目のコジェネレーション設備。



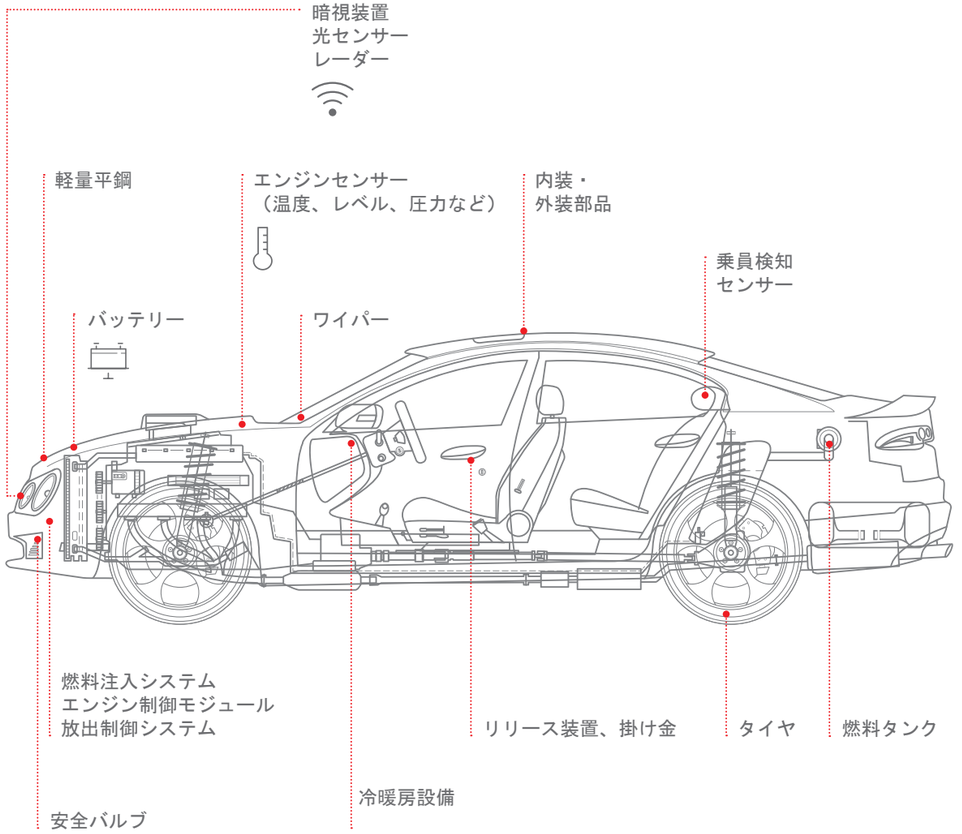
/ Guardian社工場 /

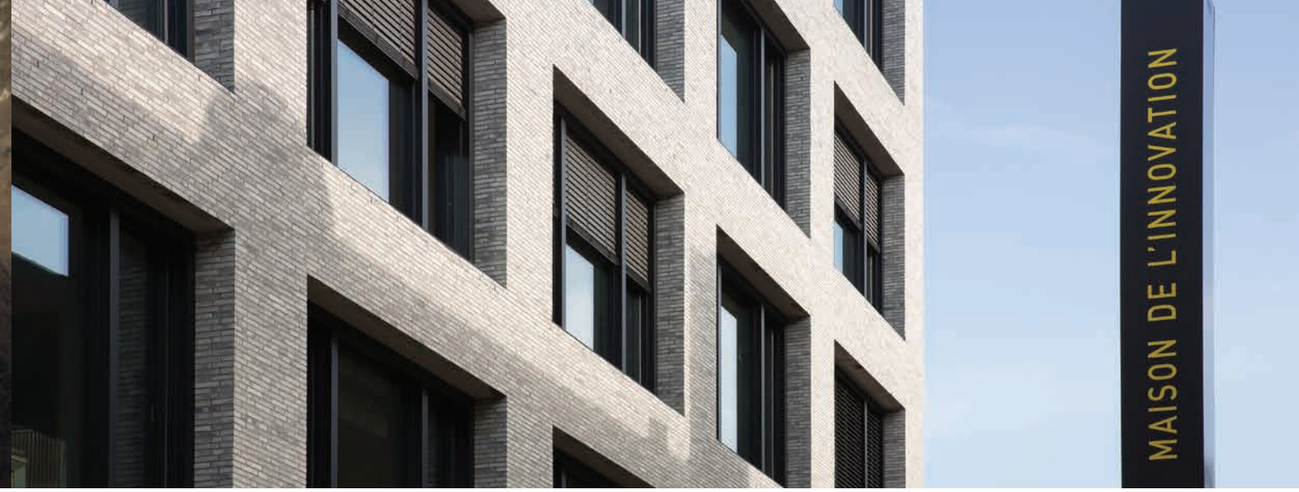
自動車産業

ルクセンブルクには自動車部品関連企業が40社以上あり、10,000人を雇用、売上高は150億ユーロです。自動車産業では、研究開発に携わる人が総人員の30%を占めています。自動車産業関連企業といくつかの研究センターは、新製品の開発のために緊密に連携しています。この動きを促進するために、ルクセンブルクは、2018年の夏にGoodyear社のタイヤ試験場の近くに「オートモティブ・キャンパス」を設立します。このセクターの複数の企業が、この新たな技術革新実験室、会議室、展示スペースを中心に、それぞれの研究活動を集結させる予定です。

ルクセンブルクは、自動車の新型車両開発やテストに理想的な市場だと広くみなされています。

ルクセンブルクに拠点を置く企業によって開発された製品＆技術





宇宙

ルクセンブルクは、宇宙関連産業においても際立った利点を備えています。真のパイオニアと言える静止軌道衛星会社SES社は1985年に事業を開始し、以来、欧州第一、世界でも2位の衛星オペレーターとなり、市場シェアは22%です。現在、54機のルクセンブルクの衛星が地球の周囲の軌道上で稼働しており、初の100%ルクセンブルク製の衛星は、2011年10月に打ち上げられました。

他国と異なり、ルクセンブルクは国立宇宙機関を持っていないため、多国籍の共同事業を重視しています。2005年、ルクセンブルクは、電気通信、地球観測、技術、宇宙航行の各プログラムに参加するために、欧州宇宙機関に加盟しました。また同2005年、GLAE（ルクセンブルク航空宇宙連合）が発足しました。この産業部門では、30社ほどの企業が事業展開しており、約700人を雇用しています。

2016年、ルクセンブルクは、特に小惑星にあるレアメタルなどの宇宙資源開拓の発展を目指した戦略の下、宇宙「挑戦」の新たなステップを踏み出しました。この戦略は、法的枠組み作り、研究開発プログラムへの投資、業界企業への資本参加で構成されています。

2018年10月までに、ルクセンブルクは自国の宇宙機関とこの分野に特化した投資ファンドを備える予定です。

クラスター

2002年以来、ルクセンブルクは、 国内経済の多様化のために、優先分野のクラスターの形成を奨励しています。民間企業、公的機関を問わない関係者のネットワークを作り、起業、技術移転、イノベーション、国際的地位の向上を促進するエコシステムを創出します。

イノベーションのための国立機関Luxinnovation（ルクスイノベーション）に属するクラスターとして入れる以下の幅広い業種をカバーしています。

- 材料＆生産技術
- ICT
- バイオヘルス
- エコイノベーション
- 自動車部品
- 宇宙
- 物流
- 海運
- MICE
- 木材関連
- クリエイティブ産業

詳細は：
www.luxinnovation.lu/innovate-in-luxembourg/luxembourg-cluster-initiative/

数多くの企業家が強調しているように、ルクセンブルクでは国内市場が小規模であることから、どの企業も意思決定過程においてグローバルを意識せずにはいられません。このような特色と合わせて、数十もの国籍の外国人労働者が国内にいることから、ルクセンブルクの経済は、世界でも最も開放的なものとなっています。

国際化された開放的な経済

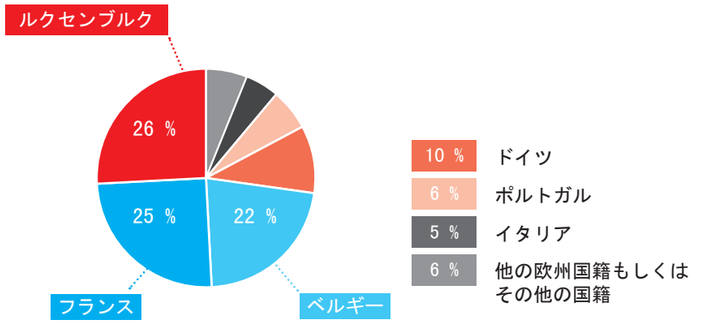
欧州の中心
ルクセンブルク

ルクセンブルクは欧州において中心的な地位を占めています。ユーロ圏およびシェンゲン圏に属しており、5億人以上の消費者を有する市場、そして商品・人・資本が自由に移動する地域への理想的な扉となっています。

ルクセンブルクはまた、欧州最大の市場を持つドイツ、フランスの２ヶ国を含む3つの隣国と緊密な関係を築いており、ルクセンブルク人は両国の言語を完璧に習得しています。

ルクセンブルクの企業家の国籍

ルクセンブルクの欧州的、そして国際的な性質は、ルクセンブルク国内で事業を始める企業家の国籍の多様性にも現れています。



広域地域圏の中心、ルクセンブルク

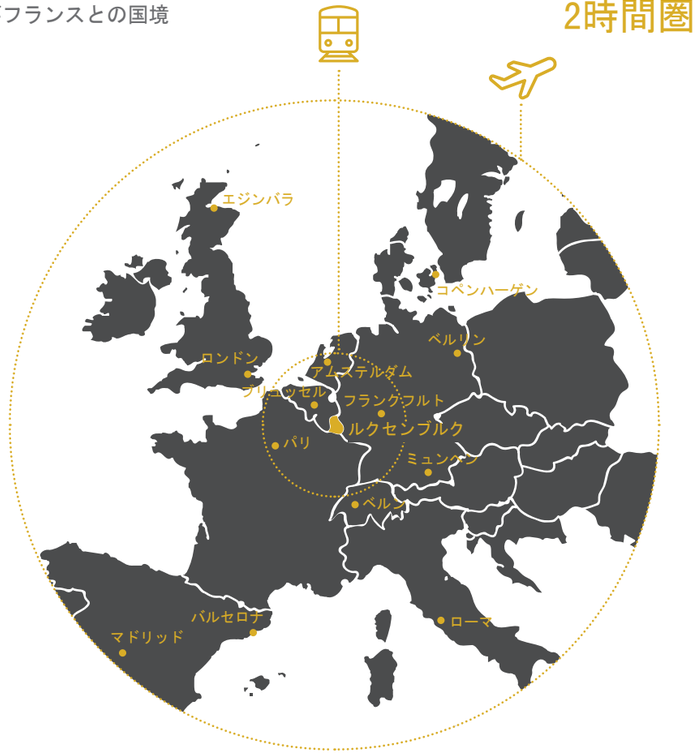
ルクセンブルクは広域地域圏（Greater Region）と呼ばれる地域の中心に位置しており、1980年代以来、地域内には数多くの協力関係が展開しています。この広域地域圏はルクセンブルク、フランス東部地域圏、ドイツのザールラント州、ラインラント＝プファルツ州、ベルギーのワロン地方によって形成され、この広い地域圏で最も小さいルクセンブルクの国土は、その中心に位置しています。この広域地域圏は人口1150万人、375,000社の企業と15の大学を有しています（アルザス地方、シャンパーニュ地方、アルデンヌ地方を除く）。

この地域圏内では大規模な交流が行われており、それは特に雇用において顕著で、この地域圏だけで、毎日200,000人以上が国境を越えて通勤しており、これは欧州連合内の越境労働者の40%を占めています。そのうちの71%が、フランス、ドイツ、ベルギーからルクセンブルクに通勤している人たちです。

ご存知でしたか？

ルクセンブルクには
359KMの国境があり、その内訳は
148ＫＭがベルギーとの国境
138ＫＭがドイツとの国境
73ＫＭがフランスとの国境

複数の
主要都市から
飛行機や列車で
2時間圏内



／ 欧州連合司法裁判所、ルクセンブルク-キルシュベルク ／

ルクセンブルク & 世界の他の地域

ルクセンブルクの経済開放度は欧州最高であり、世界でも最も開放度の高い国の1つです。開放度は、その国の物品やサービスの輸出入額を国内総生産と比較することで測ることができます。ルクセンブルクの場合、この比率は196ですが、ベルギーでは80、アメリカ合衆国に至ってはわずか15です。

ルクセンブルクの経済開放度は国際商業会議所（ICC）が出しているオープン・マーケット・インデックスでも証明されています。このランキングでは、ルクセンブルクは、香港、シンガポールに次いで 第3位につけており、ベルギーは第4位です。

ルクセンブルクの物品およびサービスの80%以上が輸出されています。

ルクセンブルクの輸出品の中で重要な割合を占めている物として、金属（製鋼業、金属業など）、機械、器材、運送設備・資材が挙げられます。

輸入品の中で、最も高い割合を占めているものは、運送設備・資材、機械、器材、化学製品です。ルクセンブルクの貿易先は、ドイツ、フランス、ベルギーの3ヶ国に集中しており、輸入品で最も多いのはベルギー製品です。2016年の貿易収支は、輸出が119億ユーロ、輸入が175億ユーロで、56億ユーロ輸入が上回りました。

ルクセンブルク大公国の経常収支（貿易収支、給与、配当、利息、資金移転などを含む国際収支残高）は、金融サービスの輸出が大部分を占める主にサービス収支の多額の黒字によって、2015年は約27億ユーロの黒字を計上しました。金融サービスだけでサービス輸出の58.2 %を占めています。

ルクセンブルクの開放性のもう一つの証は、外国からの投資を集める能力です。2013年の外国からの直接投資の合計は310億ドルでした。

> “ルクセンブルクは特に国際空港があるので、ベネルクスへの素晴らしい流通プラットフォームです。”
>
> Tsumé社創業者
> Cyril Marchiol氏

ご存知でしたか？

多言語併用 &文化

ルクセンブルクではほぼすべての映画が字幕付き原語にて上映されています。

美術館では、説明パネルのほとんどは、ドイツ語、フランス語、英語の3言語で書かれています。

国内の新聞・雑誌は、ドイツ語、フランス語、英語の記事を混じえて掲載しています。有力な外国人コミュニティーの言語による新聞・雑誌も販売されています。

国際競争の激しい状況の中、ルクセンブルクは、企業を引きつけ、国内に雇用をもたらすためには、税制の魅力が鍵であることをはっきりと認識しており、現在、政府は、公正、持続可能性、競争力という3つの目標を掲げた税制改革に取り組んでいます。

税制

法人税

ルクセンブルクは、企業にとってより魅力のある税制を提供しています。税制改革により、法人標準課税率が、2017年1月1日に、29.22%から27.8%に引き下げられ、2018年からは26.1%になります。現在の27.8%は、次のいくつかの税が含まれます：法人税19%、雇用基金への供給のための連帯税7%、地方事業税（各市町村が税率を決定、ルクセンブルク市の場合は6.75%、上記の税率計算にはこちらを使用）。

企業は、投資資金調達等のために、数多くの減税措置を享受できます。また、課税対象所得が25,000ユーロを超えない企業には、2017年1月1日以来、標準課税率22.8%が適用されています。限度額（以前は15,000ユーロ）と税率（税制改革前は28.15%）はどちらも、小規模企業に有利な方向に見直されました。

税制改革では以下の点の改善も導入されました：

- 減価償却の先送り
- 投資の税額控除率の拡大
- 債権譲渡登記手数料0.24%の廃止
- 法人税申告手続き電子化
- 会社譲渡の簡便化

税制改革以外に、知的財産権に関する新制度が発表され、数ヶ月以内に実施される予定です。

/ ルクセンブルク・ハウス – コンセプト・ストア /

個人税

個人所得税率は、特に夫婦の場合、欧州最低レベルの国の１つです。所得税は累進課税による23の税率区分に従っており、2017年1月1日より、最高税率は42%となっています（「雇用基金」を加味する場合45.78%、他に連帯税は収入により9%）。

ルクセンブルクの税負担は、収入と家族構成によって変わります。ＯＥＣＤによると、共働きで子供が2人いる夫婦（それぞれ平均給与の100%と67%）は、社会保険も含めて26%（税制改革後はさらに減少）の課税負担です（欧州連合の平均は36%）。

不動産税についても欧州で最も安い国の1つです。欧州委員会によると、2014年、ルクセンブルクの固定資産税は、国内総生産の0.1%に上がりましたが、ユーロ圏では1.4%です。

付加価値税

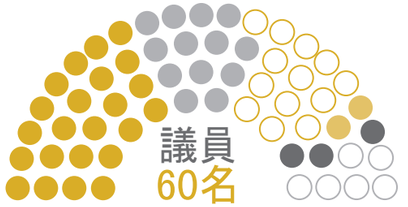
付加価値税（VAT）の標準税率は2015年1月1日以来、17%で、この税率は欧州で最低です（マルタ島で18%、キプロス、ルーマニア、ドイツでは19%）。他に、14%（特に証券保管・管理料について）、8%（特に一部のエネルギー調達について）、3%（例として、ほとんどの食品、外食、書籍、医薬品、一部の創造的な仕事、住居の改修）の低減税率があります。また、本宅としての住居の購入および改修工事に際は、「住居」付加価値税として3%が適用されます。

アルコール飲料などにかかる間接税および類似する税に関しても、国際的に見て有利です。

ご存知でしたか？

政治状況

国民議会の構成（2017年）



- 23名 CSV党（キリスト教社会党）
- 13名 LSAP党（社会労働党）
- 13名 DP党（民主党）
- 6名 DEI GRENG党（緑の党）
- 3名 ADR党（民主改革党）
- 2名 DEI LENK党（左派連合）

外国人の選挙権

ルクセンブルクでは、5年以上居住している外国人には、市町村選挙、欧州選挙の投票権があります。

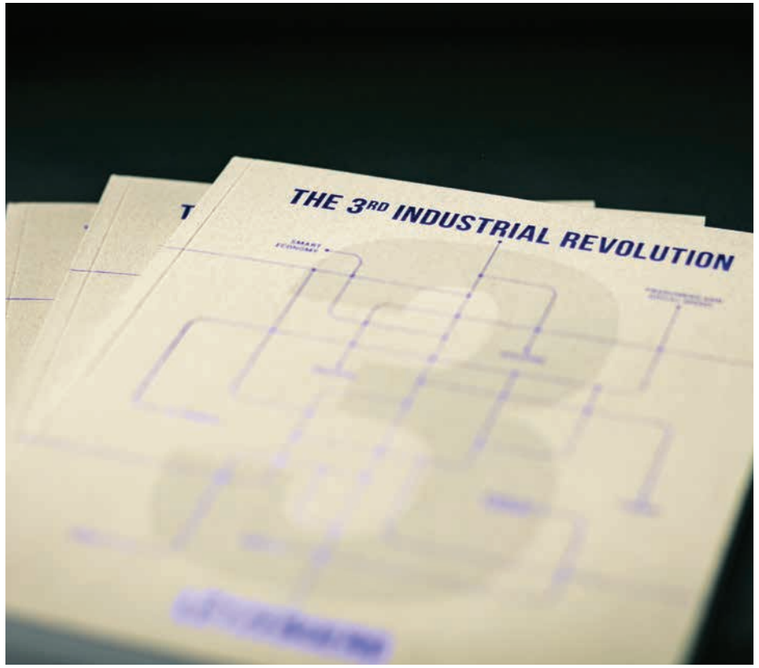
2015年末、ルクセンブルクは第3次産業革命(TIR)について戦略的調査を開始しました。アメリカ人経済学者ジェレミー・リフキンのチームの協力を得て行ったこの調査は、ルクセンブルクを考えるための構想の第1段階で、現在と未来の技術の進歩と、責任ある地球資源の利用の必要性が考慮に入れられました。

ルクセンブルク経済の未来

公共、民間、市民を巻き込んだこの調査は、9つの主要テーマに分けた広大な分野をカバーしており、それぞれに専門のワーキンググループを設け、2016年11月14日に2050年を目処にした指針の形で結論が公表されました。

3つの横断的テーマは：

- スマートエコノミー
- 循環型経済
- プロシューマーと社会モデル



/ 2016年11月14日 – アメリカ人経済学者ジェレミー・リフキンがTIR調査の結果を発表 /

次の6つの分野について考察が行われました：

エネルギー： 2050年までに、ルクセンブルクは全エネルギー消費の70%を再生可能なエネルギー源（風力、太陽光、地熱、バイオガス）でカバーします。

モビリティー： ルクセンブルクは、より公害の少ない移動手段を促進したいと考えています。無人運転の電動交通手段、公共交通手段への投資がその例です。

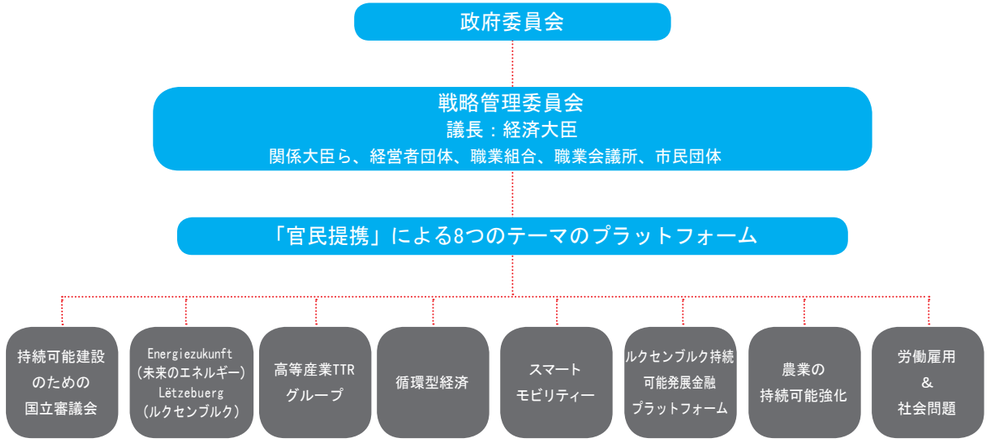
建設： エネルギー消費を抑えるために、新世代の建物が考案されるべきです。資源の循環利用を促進するインテリジェント建設に関する複数の試験計画が行われる予定です。

農産物加工業： ルクセンブルクでは、食料廃棄物の管理とこの分野でのエネルギー利用について 深く考察する機会が持たれています。

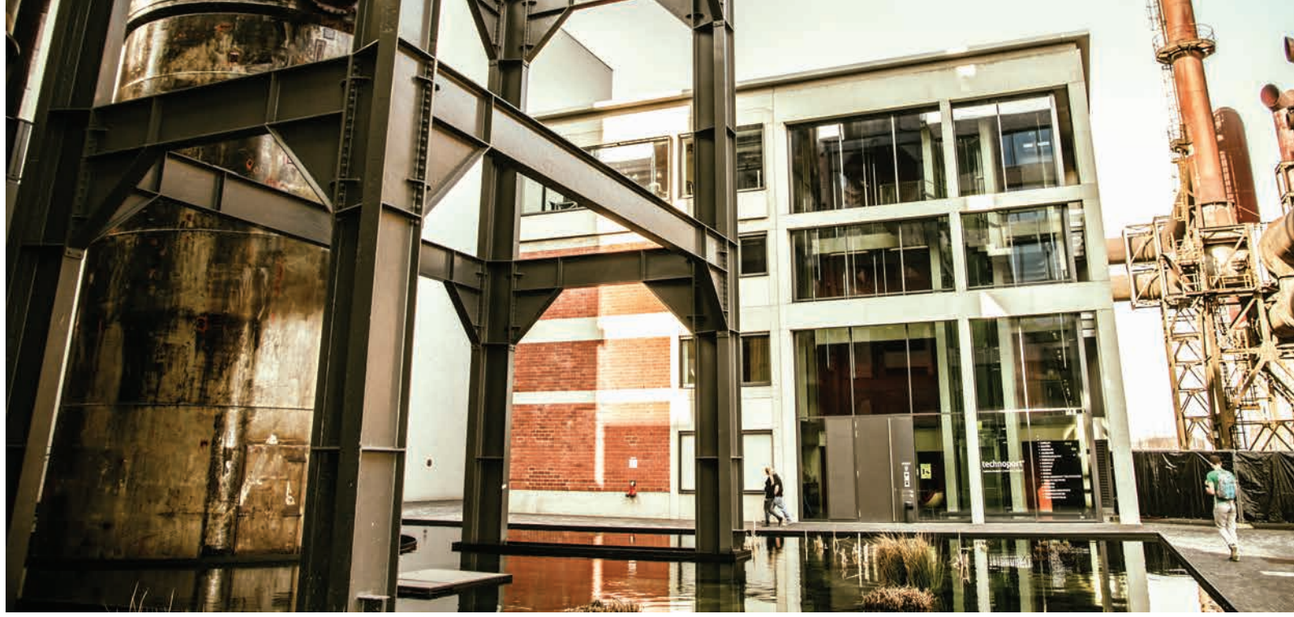
工業： ルクセンブルクは、3Dプリント、ロボット工学、バーチャルデザイン、拡張現実、IoT といった新技術の、工場やエンジニアリングセンターへの導入を奨励する産業の地であり続けます。

金融： 金融業界でも、デジタル変革やイノベーションが始まっています。ルクセンブルクの経済的移行をサポートするために、金融業界は「グリーン」ファイナンスとマイクロファイナンスの発展、法的枠組みの進展を要望している他、金融教育の重要性を強調しています。

「第3次産業革命」についての調査の組織図



詳細は：
www.troisiemerevolutionindustrielle.lu



／ テクノポート、エッシュ＝シュール＝アルゼット ／

ご存知でしたか？

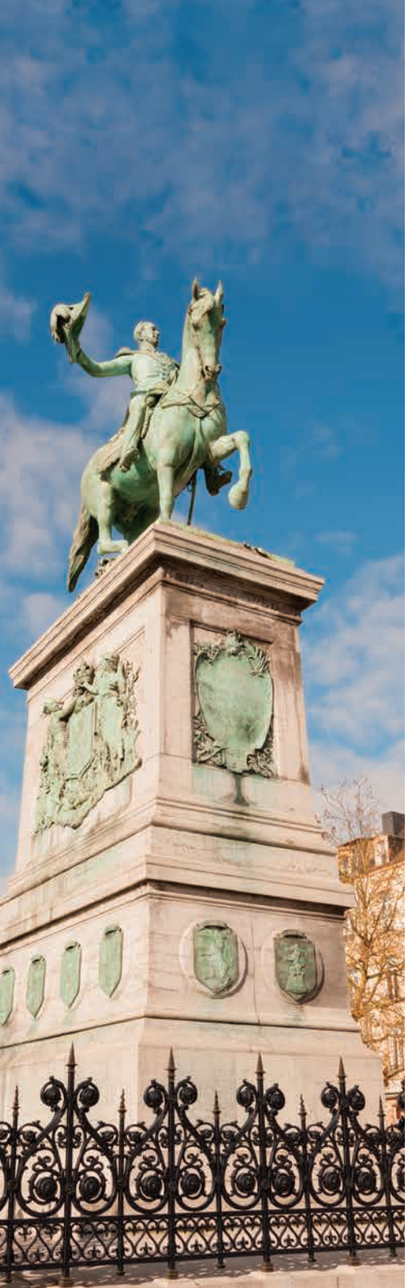
15校ほどの
インターナショナル
スクール
がルクセンブルク
国内にあります。

就学前教育から中等教育まで、複数の欧州言語による学校教育が受けられます。
また、ルクセンブルクの小中学校や高校には英語セクションを開講しているところもあります。

ルクセンブルクには
スポーツ施設
が特に数多くあります。
例えば：

6 つの
ゴルフ場

38
のプール



ご存知でしたか？

ルクセンブルクの経済史

農業国から未来の技術発展を先取りする国家へ：
ルクセンブルク経済の大きな節目

ルクセンブルクは、変わっていく世界の中で自らを再発見し、絶え間なく変化し続ける国であり続けています。ルクセンブルクは、近年の混乱に見事に耐え、将来の他の挑戦のために準備を行いました。

農業が支配的だった時代

ルクセンブルク大公国の独立 4月19日のロンドン条約で現在の国境が確立され、ベルギーから分離。

商業会議所設立のための大公勅令の発布。

ルクセンブルクが世界初の万国博覧会 ロンドン万国博覧会に出展。

ルクセンブルクで最初の鉄道2本が開通（フランス行きとベルギー行き）。

工業が主体となった時代

1860年～1885年

ルクセンブルクでの第1次産業革命。

1870年

鉄鋼業と鉱山業がルクセンブルク南部に勃興。1870年から1970年の間、これらの産業がルクセンブルク発展の主な基盤となる。

1899年から

大規模な移民の第一波により、外国人製鋼労働者がルクセンブルク人労働者より多くなる。

1901年～1902年、1911年

法律により初めての健康保険、事故保険、年金保険が発足。
これらの保険は社会的不平等を減らし、国民の連帯感を高めることを目標とした。

1913年

鉱山労働者および製鋼労働者（19,000人）がルクセンブルクの労働者および職人人口の半分以上を占める 。

1918年

大公勅令にて初めて、「ルクセンブルクフラン」という用語が用いられる。

1921年

ベルギー・ルクセンブルク経済連合(UEBL)発足。

1926年

仏独鉄鋼業国際協定（EIA） 発足

1927年

24行の銀行がルクセンブルクに存在。

1929年

経済危機、株価大暴落。20世紀最大の経済危機、「大不況」が始まる。

1945年

ルクセンブルクは 国際通貨基金と世界銀行に正式に加盟。

1945年以降

ルクセンブルクの第2次産業革命 自動車、化学、電気関連業界が飛躍的に発展。

1952年

ルクセンブルクは欧州石炭鉄鋼共同体（ECSC）の創設国であり、 欧州初の中心都市となる。

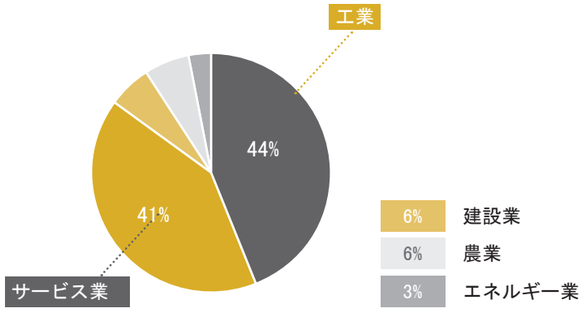
1957年

ルクセンブルクはベルギー、フランス、ドイツ、イタリア、オランダとともに欧州連合の前身、欧州経済共同体（EEC） の創設加盟国に。

1966年

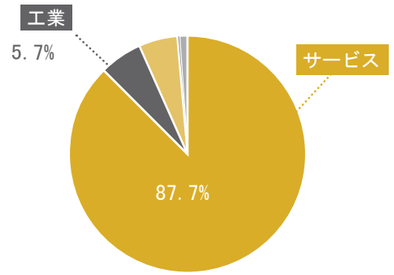
経済的、社会的方針に関する諮問機関経済社会審議会 （CES）を設立。

1970年の経済構造



6%	建設業
6%	農業
3%	エネルギー業

2015年の経済構造



5.4%	建設業
0.3%	農業
0.9%	エネルギー

ご存知でしたか？

ルクセンブルクは以下の国際同盟に加盟しています。

- ドイツ関税同盟（1842年）
- ベルギー・ルクセンブルク経済連合（1921年）
- ベネルクス（1944年）
- 国際連合 （1945年）
- NATO （1949年）
- 欧州評議会 （1949年）
- ECSC （1952年）
- 欧州共同体 （1957年）
- OECD （1960年）
- シェンゲン圏（1985年、ドイツ、フランス、イタリア、ベルギー、オランダとともに）
- 欧州連合（1993年）
- ユーロ圏（1999年）

経済の第3次産業化の時代

1970年

欧州統一通貨の導入を主張するウェルナー・プランが発表される。

1975年

世界的な鉄鋼業の不況により、ルクセンブルクも打撃を被り、20年以上振りに、一定の伸びを見せていた国内総生産が低下を示す。

1977年

12月24日付法律により、経済・社会問題において合意による解決法を見つけるために、経営者労使、組合、政府が集まった 「トリパルティット（Tripartite）」が発足。

「Made in Luxembourg」ラベルが商業会議所、職業会議所、経済省により発足。

1985年

ルクセンブルク、シェンゲン圏（移動の自由）に加入。

1999年

銀行通貨としてのユーロの導入、統一通貨政策開始。

2002年

ユーロ紙幣、硬貨の流通開始。

2005年

2005年7月10日、ルクセンブルクは欧州憲法を国民投票で承認。

2015年

経済省が「第3次産業革命戦略」と題した大規模な戦略調査実施を発表。

関係機関連絡先

“起業資金の調達の際、商業会議所からSNCIを紹介してもらったり、MCACの保証を得たりしたことは、大きな助けとなりました。”

Up Trace社創業者　Thierry van Ravestyn氏

CHAMBRE DE COMMERCE（商業会議所）

chamcom@cc.lu

www.cc.lu

職能団体でプロフェッショナルな公的機関である商業会議所は、全業種の企業（手工業と農業は除く）、すなわち給与所得者の75%に当たる国民90,000人およびルクセンブルクの国内総生産の80%の利益を守ります。

7, Rue Alcide de Gasperi
Luxembourg Kirchberg

AFFAIRES INTERNATIONALES（国際事業部）

国際事業部は、企業の国際展開の促進と、物品やサービスの輸出入の発展のための支援を主な任務としています。

international@cc.lu

HOUSE OF ENTREPRENEURSHIP

info@houseofentrepreneurship.lu

www.houseofentrepreneurship.lu

ハウス・オブ・アントレプレナーシップは、ルクセンブルクでの企業設立と発展のバリューチェーンの関係者全体を結集するプラットフォームで、起業プロジェクトを持つ人たち、および起業後の経営者らのためのサービスをまとめて提供しています。

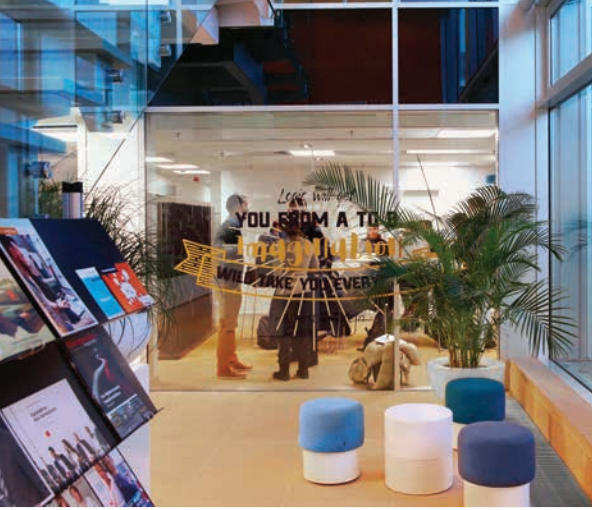
14, rue Erasme
L-1468 Luxembourg-Kirchberg

MCAC（MUTUALITÉ DE CAUTIONNEMENT ET D’AIDE AUX COMMERÇANTS, SOCIÉTÉCOOPÉRATIVE（保証金と商業者支援の相互扶助組織））：

MCACは、企業家の投資プロジェクトの資金調達のための手助けをし、企業家自身による保証が不十分な場合、認可保証機関に対し保証人となって中小企業が銀行融資を受けやすくします。

mcac@houseofentrepreneurship.lu

www.mcac.lu



ご存知でしたか？

ハウス・オブ・アントレプレナーシップのワンストップ・ショップが2016年10月にオープンして以来、電話または書面にて21,000人近くがアドバイスを受けています。ワンストップ・ショップは、毎月「ルクセンブルクでの企業設立方法」に関する説明会を開催しており、すでに167人の起業アイデアを持つ人が出席しました。

GUICHET.LU

www.guichet.public.lu/entreprises

ルクセンブルクでの手続きガイドとして、フランス語、英語、ドイツ語のポータルサイトがあり、手続きに関する情報をまとめて提供し、オンラインでの手続きも可能です。

LFF (LUXEMBOURG FOR FINANCE)

ww.luxembourgforfinance.com

金融センター発展に資する、ルクセンブルク・フォー・ファイナンス(LFF)は、ルクセンブルク政府と各金融セクターの業界団体の官民パートナーシップにより設立された機関です。この機関の目的は、ルクセンブルクの金融サービス業の発展と新たな機会の発見です。

12, rue Erasme,
L-1468 Luxembourg

LUXINNOVATION

www.luxinnovation.lu

ルクスイノベーションは、イノベーションや国外でのビジネスや貿易を促進し、外国人投資家の窓口となることで、ルクセンブルクの経済発展に貢献する組織です。

5, avenue des Hauts Fourneaux
L-4362 Esch-sur-Alzette

写真提供

P. 2: Pierre Guersing
P. 3: Pierre Guersing
P. 5: Paul Hilbert / LFT
P. 6: Christof Weber / LFT
P. 8: Université du Luxembourg
P. 13: Breedewee
P. 14: Pierre Guersing
P. 16: Pierre Guersing
P. 18: Architecture et Aménagement
P. 20-21: Jacques Molitor
P. 23: Nicolas Dohr
P. 24: OekoStroum
P. 26: Pierre Guersing
P. 28: Guardian
P. 30: Unsplash
P. 31: Luxinnovation
P. 32: Fabrizio Maltese / ONT
P. 34: Pierre Guersing
P. 38: Pierre Guersing
P. 39: EIB (European Investment Bank)
P. 40: Agence Blitz
P. 42: Luxtram
P. 43: Pierre Guersing
P. 44-45: Pierre Guersing
P. 46: Pierre Guersing
P. 47: Pierre Guersing
P. 49: SIP
P. 50-51: Daniel Delguste
P. 53: EIB (European Investment Bank)
P. 55: Pierre Guersing
P. 56: Pierre Guersing

パンフレット発行元
ルクセンブルク商業会議所

制作
SO Graphiste Freelance

印刷
株式会社アトミ

2017年9月

LUXEMBOURG
LET'S MAKE IT HAPPEN

CHAMBRE DE COMMERCE LUXEMBOURG

Chambre de Commerce
7 rue Alcide de Gasperi
L-1615 Luxembourg
Tel: (+352) 42 39 39-1
E-mail: chamcom@cc.lu
www.cc.lu